

家康の五カ国支配



織田信長の死

1582年3月、甲州攻めにより武田氏を滅亡させた織田信長は、戦いで活躍した武將に、武田氏の領国であった甲斐国・信濃国・駿河国・上野国などを与えました。

しかし、6月、本能寺の変*により、信長が死去すると、武田氏旧領国の支配は崩壊し、三河国・遠江国・駿河国を支配する徳川家康と、伊豆国・相模国・武蔵国などを支配する北条氏政との間に、甲斐国や信濃国などをめぐり争いが起こりました(天正壬午の乱)。

* 家臣の明智光秀が裏切り、本能寺(京都府)で、信長を襲撃した事件

家康の五カ国支配

10月、天正壬午の乱が収まると、家康は、三河国・遠江国・駿河国に甲斐国・信濃国を加えた5カ国の大名となり、1590年まで治めました。

このとき、家康は北条氏の領国と隣接する河東(富士川から東の駿河国一帯)の防衛や治安維持を強化しました*1。

家康は、駿東郡の長久保城(長泉町)や、三枚橋城(沼津市)にいる家臣に、富士郡(富士宮市・富士市一帯)の支配や防衛を担当させました。



家康は、戦乱により不安定となった富士上方(富士宮市・富士市北部)や富士下方(富士市)などの立て直しを図るため、検地*2や用水路の開削、駿河国と甲斐国を結ぶ中道往還上の伝馬制度*3の再整備などを行いました。

家康が発行した朱印状には、大宮浅間神社(富士山本宮浅間大社)などの寺社の復興や保護、さまざまな商売の振興について書かれています。

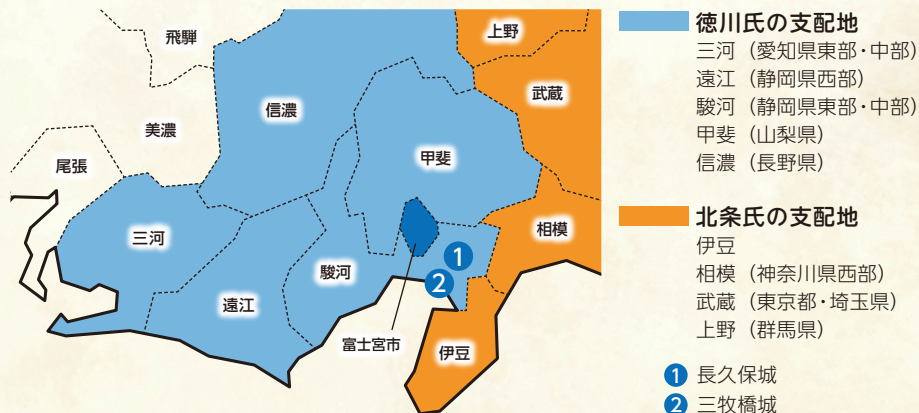
*1 天正壬午の乱の長期化を懸念した家康と氏政は、和睦の証として、1583年8月、家康の娘・督姫と氏政の子・氏直の婚姻関係を結んだが、家康は北条氏の動きを警戒し、軍備を固めた。

*2 水田や田畑の面積、収穫高、年貢(税金)を納める耕作者などを調べること。

*3 宿駅に人馬を常駐させ、宿場ごとに人や公用の荷物を交替して運ぶ制度。



家康の5カ国支配の頃の勢力図



ゆかりの地



取水口
内野横手沢に設置され、その様子が江戸時代の北山用水経図にも描かれている。



北山本門寺
甲州攻めの際、当時の買主*・日出が本尊を家康に貸したところ、鉄砲から守られたと伝わる(鉄砲曼荼羅)。*住職



北山用水掛樋
大久保沢の深い谷の両側から、木製の樋を掛けて用水を通したとされる。

家康と北山(本門寺)用水

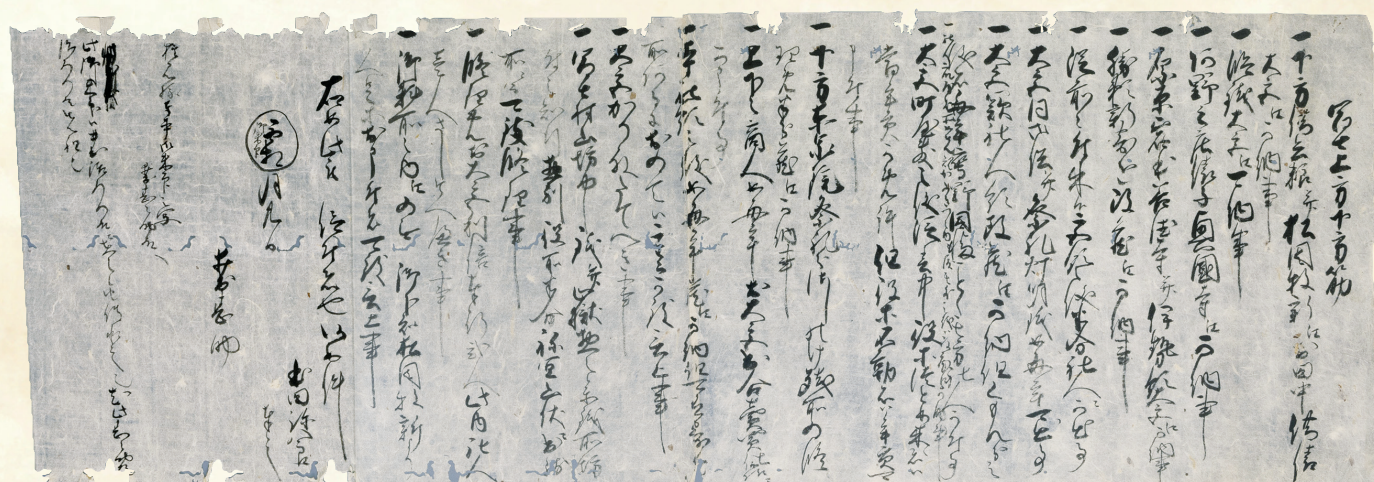
富士宮市は、富士山の湧水に恵まれる地域が多い一方で、水のない地域では、天水(雨水)に頼る生活が長く続いていました。江戸時代から明治時代にかけて、水のない土地を開発するために、芝川や潤井川などの河川や湧水を水源に、多くの用水が開削されました。

1582年、家康は北山本門寺の願いを受け、家臣・井出正次に用水路の開削を命じました。正次は、芝川の水を内野横手沢から引く工事を4カ月で完成させたといわれています。

この北山(本門寺)用水は、江戸時代には、北山のほか、外神、宮原、山宮、万野原新田まで広げられ、生活に必要な水を確保しやすくなりました。



▲江戸時代の北山(本門寺)用水絵図



▲徳川家康朱印状写(1583年11月20日/富士山かぐや姫ミュージアム蔵)